

すべても味方 すべてが味方

松下電器があるところまで大きくなったころの話です。

「松下に入社したい」という就職希望の学生たちを、松下社長が自ら面接していたときがありました。

その面接に来たすべての学生たちに、松下社長はこう質問しました。

「あなたは、今までの人生を振り返って、ツイてきたか、ツイてこなかったか、ラッキーだったか、アンラッキーだったか、どう思いますか？」

東大卒や京大卒の人など、優秀な学生たちも来ていましたが、

「今までの自分の人生は、苦勞が多く不運だったと思います」と答えた人は、どんなに優秀な人でも採らなかつたそうです。

「ちょっとラッキーだったかもしれません」という人も採らなかつた。

「いやー私はツイまくってました」「ラッキーの塊でした」「幸運の連続でした」と答えた人は採用したそうです。のちに、松下幸之助社長がその方法で採用した（ツイまくっている人たちの集団）が社内の中核を占めるようになった時代。

そのころに発売された商品というのは、すべて奇跡的な売れ方をしました。

「自分はものすごくツイてきた。本当に恵まれてきた」と言える人はイコール「感謝をしてきました」という人でもあったのでしょう。

三笠書房 小林正観

このお話はとても有名ですね。一度は聞いたことがあるという人も多くいると思います。あらためて見ると、やっぱり考えさせられますよね。

(株) ISO

餘助

